

2025年度 看護職員の負担軽減及び改善計画						
項目		現状・問題点	目標達成年次	目標	具体的実施計画	
業務量の調整	時間外労働の短縮	病棟				*青字は達成又は実施中
		1. 看護記録が残業の要因となることが多い。				赤字は今後の課題と計画
		・電カルが持ち歩けず、メモをして後で入力するため効率が悪い。よって後回しになり残業になる。	2025年度	・病棟電子カルテの無線化 ・タイムリーな記録を行い、看護記録による残業を減らす	・2024年度中に無線化に向けた具体的方法について検討 ・記録はタイムリーに行うことをスタッフへ再指導を行う。	・2024年11月無線化計画開始 2025年5月をめどに開始予定
		・あらかじめ電カルから情報収集を行う必要があり、始業前残業の時間が長い。	2025年度	・始業前残業を20分以内に減らす	・電子カルテが無線化になることで、いつでも情報の確認ができるため、始業前の情報収集の時間を削減できる。	
		・重複記録や不要な記録などが整理されていない。	継続中	・看護記録内容の見直し（重複記録や見ない記録はしない）	・「看護記録マニュアル」の見直しを行い、記録の内容や方法について検討する。 ・年1回以上記録の監査を行う。	・重複記録をしないこと、マスタの整備を行った。 ・記録の監査も1回/年継続して実施。
		・電カルから収集した一部の情報しか持ち歩けないため、患者の状態の変化や指示の確認がその場でできず、その都度確認のための移動を行っている	2025年度	・病棟電子カルテの無線化		
		3. 診療の補助業務が時間外の要因となっている				
		・夕方から処置が始まるため、日勤看護師を一人残して介助についている。（残り番は残業としている）	2025年度	・予定処置の勤務時間内での実施 ・残り番の廃止 ・看護補助者の遅番導入	・処置時間の調整などを医局と検討し、時間内で処置が終われるようにする。	・夕方の処置が多く、残り番の廃止に至っていない。 7：00前の処置は行わない、17：00過ぎの処置も極力行わないよう医師の協力を得る。
		・処置のための始業前残業の増加（早朝処置による早番の前残業）	2025年度	・早番の前残業ゼロ	・処置の開始は7：00以降とする。	
		手術室				
		・予定手術が1部屋以上時間外になる日が多く、遅番、夜勤以外のスタッフが残って手術についている	継続中	・日勤帯で終了するような手術予定の組み方の定着	・予定手術は8割を目途に予定を組み、緊急が入っても1部屋対応ができるようにする。（医局との検討） 手術の予定管理について具体的な方法の検討	・毎木曜日、翌週の手術の組み方に関して医師と検討して管理している。 今後も継続
		外来				
		・予約数が人数枠を超えている上に新患も多いため、午前外来が14時を過ぎることも多い。	2025年度	・外来体制の根本的な見直し	・外来予約患者数の厳守、外来新患患者数の制限、再来と新患の診察時間の調整、待ち時間の対応などの検討	・新患番の導入を含め、検討中
		・待ち時間が長く患者からの苦情も多い。	2025年度	・業務内容、業務分担の見直し	・薬剤の鑑定業務を薬剤科へ委譲し、現在入院案内に一番時間がかかっている業務を削減する。	・2025年月開始予定
項目	現状・問題点	目標達成年次	目標	具体的実施計画		
看護補助者の配置	看護補助者の業務内容の検討	・看護補助者が病棟に1名しかいないため、環境整備以外の業務まで手が回らない。患者への直接ケアができない事でのモチベーションの低下	実施済継続中	・病棟看護補助者の増員 ・看護補助者の業務内容の見直し ・看護補助者のスキルアップ	・2名の採用を行い、病棟へ配属し3名とする ・看護補助者の業務基準・手順の作成 ・毎年の看護補助者研修の継続	・人員の確保はできた。看護補助者の業務を見直し、ベッドサイドケアへの介入も増えている。 1回/年以上の研修を行う。
					・入院時の病棟内の案内を補助者業務とする。 ・CSセットの在庫管理と患者への配布 ・全身状態が安定している患者の療養生活上の世話を行う。	・病棟案内とCSセットの管理は業務委譲を行った。 ・療養生活上の世話に関しては、看護師指示の下で実施している。
妊娠・子育て中の職員への配慮		実施中	・育児・介護休業規定に準じた対応の継続と、家庭状況に応じた柔軟な対応。			
夜勤負担の軽減		・夜勤従事者の減少（子育て世代の増加、夜勤を希望しない看護師の増加）	2025年度～2026年度	・忙しい時間帯の人員の確保、多様な勤務時間の導入	・夜勤可能な看護師の確保 病棟最低18名（師長、主任を除く）、手術室最低8名（師長、主任を除く）	・現在は夜勤時間もクリアできているが、子育て世代の夜勤不可能な職員が増える可能性がある。夜勤専従の体制の確立、少ない人数で効率よく勤務するための看護体制の見直しが新たな課題。

・現在は夜勤時間もクリアできているが、子育て世代の夜勤不可能な職員が増える可能性がある。夜勤専従の体制の確立、少ない人数で効率よく勤務するための看護体制の見直しが新たな課題。